



函館新聞の取材もあり、4/21に「風船で楽しく運動～旭ヶ岡の家でダンスワークショップ」というタイトルで掲載されました！



フィリップ・シエールさんによる

ダンスの不思議なレクリエーション

4月20日、特養の喫茶ボンジュールにて、舞踏家で振付家のフィリップ・シエールさんによる、ダンスの不思議なレクリエーションを開催しました。以前特養へ面会のため来園された広島市立大学国際学部の湯浅正恵教授のご紹介により、今回初めて実現いたしました。最初は風船を腕の中で転がしながらのウォーミングアップ、次第に風船なしでの自由な動きに挑戦！参加された入居者からは「ゆっくりした動きなのに指先までボカボカになった」「不思議な宇宙の踊り！」の感想が多く、自由な動きの場面では一部で風船バレーが始まったり、お隣の方と2人1組で相手の動きを真似ては笑い出す…等々、初めての活動を思い思いに楽しんでいる様子でした(*^-^*)
また機会があれば、次回は午前レクリエーション、午後からフィリップさんらの「コンテンポラリーダンス」の披露というスケジュールでお願いする予定です！

フィリップ・シエール(Philippe Chehere)さん プロフィール

舞踏家/振付家。演劇分野の経験を経て、仏モンペリエ国立振付センター現代舞踏養成コースに参加し、マチルド・モニエに師事。数々のダンスカンパニーで踊ると同時にダンス教育も行う。1999年、初の振付作品を発表。2003年、パリ・サルペトリエール病院にて、ダンスを誰にでも手の届くものにするためのプロジェクトを開始。2004年、笹川日仏財団の協力により日仏芸術交流プロジェクトを東京で実施、美術館や大学などでパフォーマンスを行う。日仏共同制作作品に、大橋可也との「トランスファウヌス」、森繁哉との「フクシマ―痛むものの声」、黒い雨訴訟に合わせて10人のアーティストと共に広島で上演した「黒い雨」などがある。2006年、パリ第8大学修士課程で「舞踏家の知識と病院における芸術的実践」の研究開始。以後、研究と発表を続けている。

今回のレクリエーション開催にあたり、フィリップさんの友人であり絵本作家の阿部英太郎さん、同じく友人でダンス仲間の鈴木美里さんには当日の会場設営や活動等、様々な配慮・ご協力をいただきました！感謝！



家族会お楽しみタイム(4/2)ゲスト出演の高田姉弟！今回は2回目となり、さらにパワーアップ！大勢の入居者を前に、透き通るような美声でゴスペル曲を披露してくれました。堂々たる歌いっぷりに皆様感心していらっしゃいました。



ここ最近暖かい日が続き、特養中庭の八重桜の蕾も徐々に膨らんできました。お天気の良い時は入居者の皆さんが日光浴兼ねてお散歩にいらしています。

お花見ドライブ第1回(4/25)のーコマ。今回は10連休と桜の見頃が重なり、渋滞を避けるため連休直前に急遽出発！お天気も良く、皆様リフレッシュできたようです(^_^)

